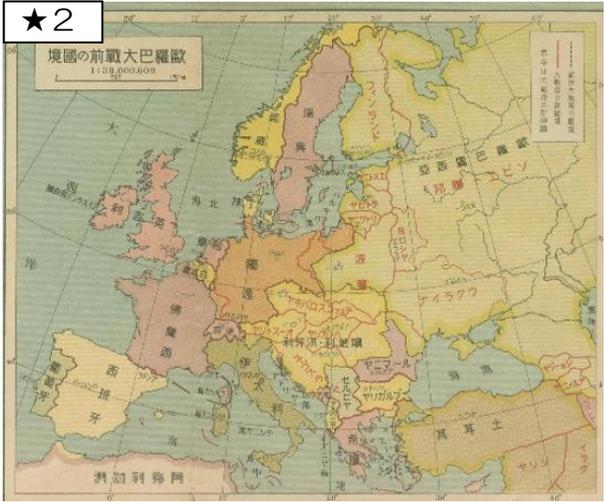




★2

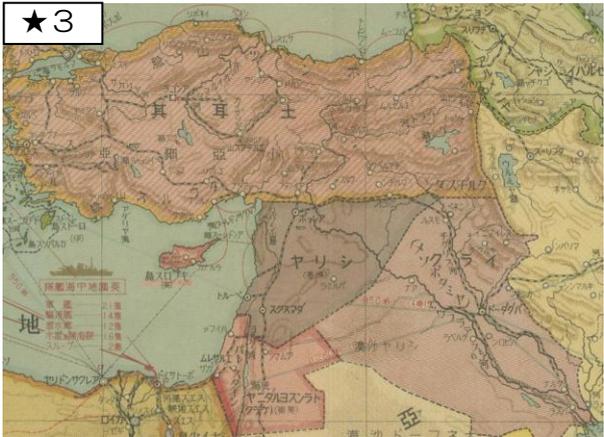


★2 欧羅巴大戦前の国境

・なぜ東欧に複数の新しい国家が誕生したのだろうか？

第一次世界大戦の結果、同盟国側として参戦したドイツ帝国、オーストリア=ハンガリー二重帝国、西アジアのオスマン帝国が崩壊した。さらに、1917年に勃発したロシア革命の結果、ロシア帝国が崩壊した。★2『欧羅巴大戦前の国境』では、東欧の新興国家が、もともとの帝国の領土であったかを比較することができる。例えば、ポーランド（波蘭）はもともと三つの帝国に分割されていたことが読み取れる。18世紀の後半、ポーランドはロシア・オーストリア・プロイセンによって国土を奪われ、国家として消滅した。（ポーランド分割）

★3



★3 第一次世界大戦後の西アジア

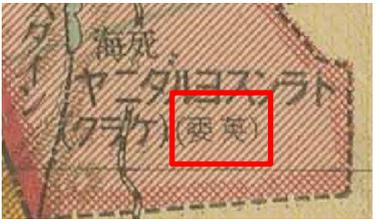
・西アジアでも民族自決は認められたのだろうか？

アラブ人が多く居住するイラクやシリア（シリア）は、★2『欧羅巴大戦前の国境』を見るとトルコ人のオスマン帝国に支配されていることが分かる。

★3を見ると、トランスヨルダン（トランスヨルダニア）・パレスチナ（パレスタイン）は桃色で表現され、英委と記されている。また、シリア（シリア）・レバノンは紫色で表現され、佛委（仏委）と記されている。オスマン帝国崩壊後の西アジアでは、「委任統治」という形でイギリスやフランスの統治が行われ、民族自決は実現しなかった。特に、パレスチナ問題は現在も民族紛争の火種となっている。

イラクも第一次世界大戦後はイギリスの委任統治下にあったが、1932年にイラク王国として独立した。

★3拡大



★4



★4

・イギリスが地中海艦隊を保有しているのはなぜだろう？

★4には「英國地中海艦隊」の記載がある。大西洋と北海に面しているイギリスが地中海にも艦隊を保持していることが読み取れる。★4の船舶の航路を示した赤い矢印がシナイ半島とエジプトの間に集中しているが、これはスエズ運河で、イギリス本国と植民地インドを最短距離で結ぶ重要なインフラだった。そのため、イギリスはウラービーの反乱（1881年）を鎮圧した翌年、エジプトを事実上の保護国とした。

第一次世界大戦後、エジプトでは全国的な反英運動が起こり、民族自決が謳われたこともあって、1922年にイギリスはエジプト王国の独立を承認した。しかし、イギリスはスエズ運河の支配権を維持したため、エジプトが完全な主権を手にしたとは言えなかった。イギリスの地中海艦隊は、スエズ運河や西アジアの委任統治領の維持に不可欠だった。

スエズ運河を巡っては、1956年にエジプト共和国のナセル大統領が、スエズ運河国有化を宣言したが、イギリスとの対立が表面化し、第2次中東戦争（スエズ戦争）が勃発した。

★4拡大



英國地中海艦隊	
軍艦	21隻
駆逐艦	14隻
潜水艦	12隻
水雷及掃海艇	16隻
スループ	2隻

【利用の例】

○高等学校の歴史総合や世界史探究で、民族自決の授業に活用することができる。

- 東ヨーロッパでは、民族自決が適用され、複数の新興国が誕生した。
- 西アジアでは、民族自決が適用されず、委任統治が行われた。
- エジプトでは、民族自決が適用されたが、完全な主権を手にしたわけではなかった。

☆多面的・多角的に地図から読み取ることを通して、戦間期の世界では民族自決よりも、第一次世界大戦の戦勝国の権益の方が優先されたことがわかる。